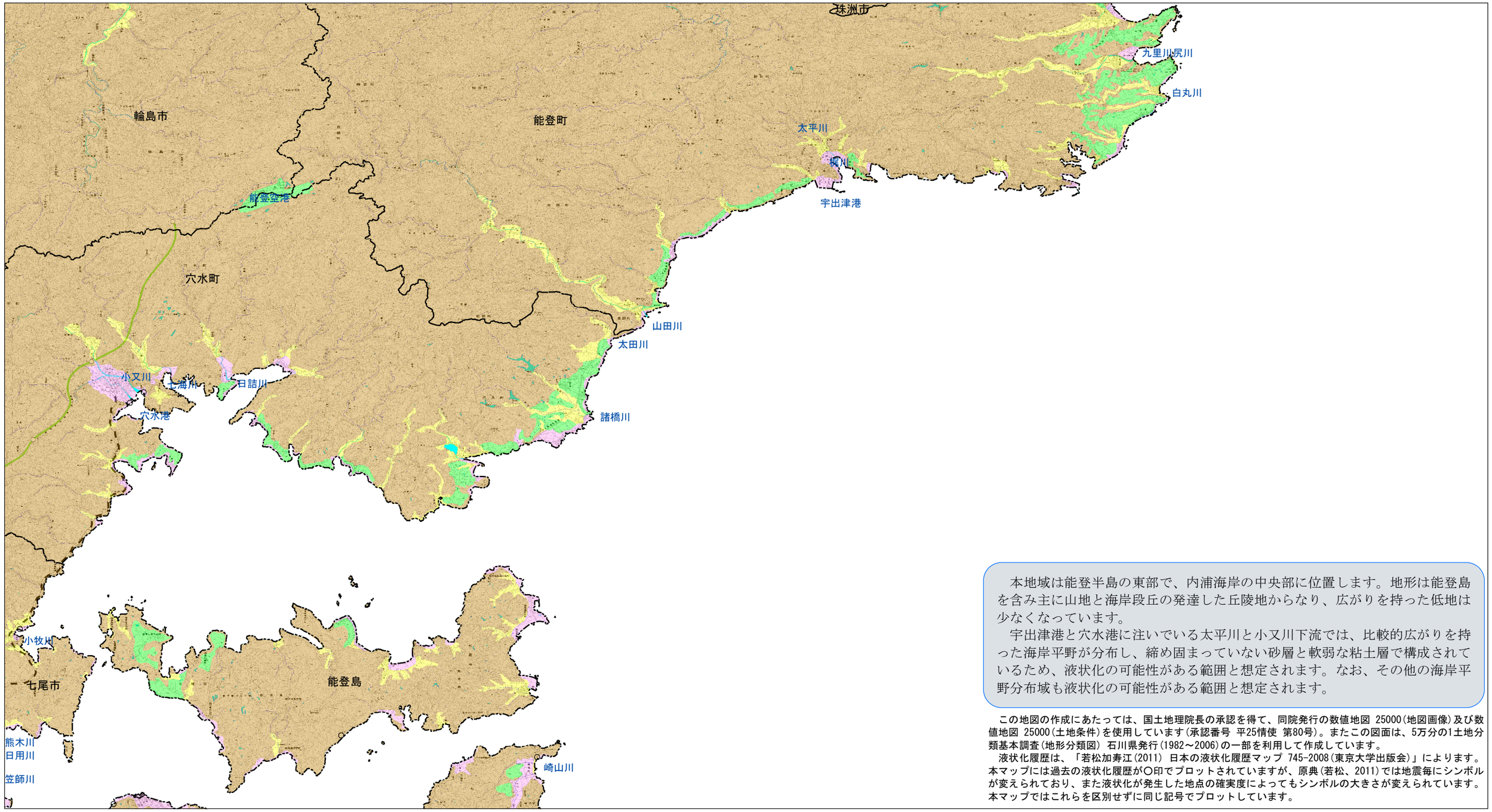
穴水地域

液状化しやすさマップ



本地域は能登半島の東部で、内浦海岸の中央部に位置します。地形は能登島を含み主に山地と海岸段丘の発達した丘陵地からなり、広がりを持った低地は少なくなっています。

宇出津港と穴水港に注いでいる太平川と小又川下流では、比較的広がりを持った海岸平野が分布し、締め固まっていない砂層と軟弱な粘土層で構成されているため、液状化の可能性がある範囲と想定されます。なお、その他の海岸平野分布域も液状化の可能性がある範囲と想定されます。

この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 25000(地図画像)及び数値地図 25000(土地条件)を使用しています(承認番号 平25情使 第80号)。またこの図面は、5万分の1土地分類基本調査(地形分類図) 石川県発行(1982～2006)の一部を利用して作成しています。

液状化履歴は、「若松加寿江(2011) 日本の液状化履歴マップ 745-2008(東京大学出版会)」によります。本マップには過去の液状化履歴が○印でプロットされていますが、原典(若松、2011)では地震毎にシンボルが変えられており、また液状化が発生した地点の確実度によってもシンボルの大きさが変えられています。本マップではこれらを区別せずに同じ記号でプロットしています。